

山口大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、以下の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、以下の問合せ先までお申出ください。

その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

① 研究課題名	CT colonography 後の腹部造影ダイナミック CT：大腸炭酸ガス拡張による影響の検討		
② 実施予定期間	2018年11月1日から2020年3月31日		
③ 対象患者	④の対象期間中に⑥の対象診療科でCT colonography 検査および造影ダイナミックCTを受けられた患者さん、また、同時期に腹部造影ダイナミックCTを施行された患者さん（対照群）		
④ 対象期間	2014年4月1日から2018年7月31日		
⑤ 研究機関の名称	別添参照		
⑥ 対象診療科	第一内科、第一外科、第二外科		
⑦ 研究責任者	氏名	伊東克能	所属 医学系研究科 放射線医学
⑧ 使用する情報等	腹部CT画像、性別、年齢、血液検査結果（アルブミン、AST、ALT、 γ -GTP、ビリルビン）、腹部症状の有無		
⑨ 研究の概要	<p>CT colonography検査は大腸内視鏡検査と同等の精度があるとして、米国癌学会の大腸癌検診ガイドラインに有用な精密検査法として記載されており、本邦での検査も増えてきています。CT colonography検査では前処置として大腸を炭酸ガスによって拡張させて撮影することで大腸3次元画像を得ますが、造影剤を用いたダイナミックCTも同時に施行し、他の腹部骨盤臓器の病変や血管分布の評価も行います。この際、大腸炭酸ガス拡張による血流動態への影響が考えられますが、それに伴う画像所見について検討された研究はほとんどありません。</p> <p>本研究の目的は、山口大学医学部附属病院（当院）および川崎医科大学附属病院でCT colonography検査を施行された患者さんにおいて、同時に撮像された造影ダイナミックCTにおける血管や各臓器（とくに肝臓と消化管）の造影効果などの画像所見を当院に集め、当院で評価し、大腸炭酸ガス拡張による血流動態への影響を検討することです。また、CT colonography検査の前や経過観察に撮像された造影ダイナミックCTや、対照群の造影ダイナミックCTとも比較します。これにより、大腸炭酸ガス拡張によって生じた、正常とは異なる画像所見や偽病変の存在が明確になり、正しい画像診断の一助となると考えられます。</p>		
⑩ 倫理審査	倫理審査委員会承認日	2018年10月24日	
⑪ 研究計画書等の	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及		

閲覧等	<p>知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。 詳細な方法に関しては以下の問い合わせ先にご連絡ください。</p>		
⑫ 結果の公表	学会や論文等で公表します。		
⑬ 個人情報の保護	結果を公表する場合、個人が特定されることはありません。		
⑭ 知的財産権	本研究グループに帰属します		
⑮ 研究の資金源	山口大学大学院医学系研究科放射線医学講座の奨学寄附金を用いて実施します。		
⑯ 利益相反	ありません。		
⑰ 問い合わせ先・ 相談窓口	山口大学医学部附属病院 放射線科 担当者：田辺昌寛		
	電話	0836-22-2283	FAX 0836-22-2285

別添

研究組織

研究代表者：

山口大学大学院医学系研究科 放射線医学 伊東克能

研究参加施設と研究責任者

山口大学医学部附属病院 伊東克能

川崎医科大学医学部附属病院 玉田 勉